

令和4年度第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和4年7月8日（金）9:30～11:30

場所：須崎市総合福祉センター 2階 会議室

出席：委員23名中、21名が出席（代理出席1名含む）

議事：（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）高幡地域アクションプランの進捗状況等について

2）追加・修正等の案件について

（3）産業成長戦略について

1）移住促進・空き家対策の取り組みについて

2）関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

3）連続テレビ小説「らんまん」を生かした博覧会の推進について

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）高幡地域アクションプランの進捗状況等について

2）追加・修正等の案件について

（No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト）

（武田委員）

原油や資材価格の高騰などいろいろと問題のあることをふまえると、令和4年度の目標達成は難しいと思われるが、指標としてどのように考えるか。全体的な原材料の調達が厳しい状況になっている中で令和4年度目標の達成は難しいのではないか。

四万十町の養豚などもかなり厳しい状況で、原油高騰の影響を受けて先行きに不安を感じていると聞いている。大変厳しい状況なので目標を達成するための支援策の検討もお願いしたい。

（浅野地域産業振興監）

非常に厳しい状況ではあるが、ご意見をふまえ施策も展開しながら、実行支援チームでしっかり支援をしていく。また、時々状況や価格高騰などの影響もふまえながら支援策についても検討していきたいと考える。

（No.14 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大）

（嶺山委員）

浦ノ内の養殖マダイは苦戦をしているようだが、どの程度の加工をしているのか。(宿毛での乾物加工を例に挙げて。宿毛では干物を真空パックにしており、評価が良く品切れの状態と聞いている。)

(中央漁業指導所 織田所長)

指標は出荷尾数で行っている。コロナ禍であっても加工の需要はあったと聞いており、加工場が手狭になっていることから加工場を拡充した。乙女鯛や養殖のブリなども加工をしており、12月の需要期にはかなりの注文があったと聞いている。

(No. 20 中土佐町 SEA プロジェクト)

(嶺山委員)

「道の駅なかとさ」は、地域の農林水産の振興という目的があったはずであるが、現状ではスペースが狭く商品（魚）を出したくても出せないことがあると聞くが、販売スペースを拓けるなど、商品を出したいという生産者の要望にこたえられないか。

(池田（洋）委員)

当初は、鮮魚商のみなさんへの民業圧迫にならないような配慮が必要であったし、お伺いしても、出店希望者がいない状況であった。それが上ノ加江から1社出荷を始め、だんだん道の駅にお客様が来るのがわかり、鮮魚を納品してくれる方が増えてきた。上ノ加江漁協から毎日揚げてくれており、新鮮で安いと好評をいただいている。スペースを拓けることは可能であるが、一時的ではなく安定した出荷をお願いしたい。店舗に不良在庫を置かないように買取ではなく委託形式をとっている。納品の形態など具体的な希望を言ってもらえれば対応できると思う。

(No. 8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)

(竹内委員)

コロナ禍において地域経済も落ち込み、更に世界情勢が大変厳しく、物価高・資材供給の遅れなど、全ての事業で大変な影響が出てくるのではないか。四万十町の豚の関係では、屠畜場の衛生管理も非常に重要になるが、来年度開業予定の高知市の屠畜場では豚を扱わず、四万十市での対応とのことだがその改修の目途が立っていないと聞いている。

また、高幡にはその他にも「四万十ヒノキ」「養殖の魚」などそれぞれ厳しい状況になっている。県産材を使った住宅への補助をはじめ、豚や養殖魚の飼料の高騰への価格転嫁ができないことについてもご検討をお願いしたい。

(浅野地域産業振興監)

今いただいたお話しは6月補正で施策として対応できているものもある。関係機関はもとより、各部局の副部長級で構成されている「経済対策プロジェクトチーム」で対応を検討しているのでつないでおく。

(No. 3 梶原産キジ肉の加工・販売の拡大)

(大地委員)

高幡地域は「キジ」も「和牛」も「豚」もおいしい。しかし消費者の立場で言うと、四万川へ

行けば、キジは売っているかもしれないが、その他で売っているところ分からない。高齢者の庭先まで来てくれる移動販売で、県の補助により消費拡大を図ってはどうか。中山間の高齢者の食を賄う、便利さを賄うような政策が必要ではないか、売上にすると小さいかも知れないが大事なことである。

また、林業の機械設備等の補助金はありがたいが、補助をいただくまでに時間がかかりすぎる。書類が多すぎるのでできるだけ簡素化をお願いしたい

(須崎林業事務所 高橋所長)

特に高性能林業機械の手続きについては県単独ではなく、国庫補助事業も活用しながら、市町村も経由して対応するようになってきているため、どうしても繁雑な作業となってくる。できるだけ、作りやすいように一緒に検討していきたい。

(浅野地域産業振興監)

キジについては、梶原町と共に生産者を増やす取り組みや、衛生管理も含めて加工場など環境整備に取り組んでいるところなので、いただいたご意見も反映しながら取り組んでいく。

(津野町の施設整備について)

(池田 (三) 委員)

昨年度、3つの観光拠点を整備し、それぞれの事業所さんが頑張っていたのおかげで、入込も多かったがオープン後に様々な課題も見えてきた。TENGUでの従業員、特に調理師の確保が非常に大きな課題となっている。調理師学校などにもあつたが、調理師を目指す若い方は大きなホテルで経験を積まれてから、個人開業を目指す傾向にある。これからの観光は「食」。だからこそ調理師の確保は非常に大事なことになるので、県にも一緒に取り組みを支援してほしい。

(浅野地域産業振興監)

シェフの確保は非常にハードルが高いが、いろいろな関係機関に相談して道を探っていく。

(楠瀬座長)

絶対数が足りないということもあるが、天狗高原まで上がる地理的なハンディもある。

調理師をはじめスタッフの確保に苦勞されており、稼働率も7割におさえられている。

これから更に実績を伸ばすのであれば、100%稼働できる体制を確保する必要があるので、県にはそういう現状があることを知っていただければと思う。

(地域観光全般について)

(アウテンボーガルト委員)

四十万十川流域の「すみずみツーリズム」を運営している。個人開業の宿泊・店舗が多く、35軒ぐらいの民宿さんに加入してもらっている。高齢化もあるがコロナ禍により辞めた人もいる一方で、若い方がAirbnbを初めていたりもする。小さいながらもどうやって地域の振興をはかっていくか、知恵を借りながら取り組んでいる。素晴らしいおかみさんの手料理であったり、体験であったり、いろいろな取り組みを35軒それぞれが取り組んでいる。もうやめるか、続けるかいろいろな影響を受けながら粘り強く取り組んでいるが、是非このような活動を知ってもらい、支援をいただける機会があればお願いしたい。(特に各首長さんにも知ってもらいたい)

(向井委員)

それぞれの SNS やホームページでの情報発信について、いかに接点を増やせるか。広域観光としてどう関われるかを意識しながら発信していきたい。SNS での広報にも力を入れていきたいと考えており、「すみずみツーリズム」のような取り組みにも、SNS などの活用は有効と考えるので、ぜひご協力をお願いしたい。

(吉田委員)

梶原町では現在、太郎川公園の再生整備を検討しているところ。

ホテル、レストラン、道の駅の再生整備を検討しており、町内の様々な取り組みとからめながら、皆さんにメリットのあるかたちで、町内全体で生かしていけるようにしたい。

(No. 40 ジップラインと道の駅を核とした四万十町の観光拠点整備事業)

(中野委員)

自分自身も移住して十和（四万十町）に来ており、現在は道の駅四万十とおわの指定管理者として運営している。

コロナ禍で大変な状況ではあるが、この春は道の駅にお客さんや観光客がすごく戻って来ていると感じている。アクションプランの1つとしていろいろな取り組みを通して最終良い着地ができたかと考えているので、今後とも宜しく願います。

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進・空き家対策の取り組みについて

(三浦委員)

1,167組の移住とあるが移住後のフォローアップとして、なじみずに離れていった人の数字も示していく必要があるのではないか。また、後追いされているのかについても教えていただきたい。

(移住促進課 那須課長補佐)

移住後のフォローアップの調査を毎年実施しているが、アンケートの回答があった9割近い方々は残っており、約1割の方が仕事の都合やいろいろな事情で地域になじめなくて出て行っているとお聞きしている。そういう意味では、高い確率で残っていただいていると認識している。

(大地委員)

空き家率が全国ワースト1位ということだが、空き家対策はどうなっているのか。

後継者がいないということは、家を守る跡取りがないということ。跡取り対策としては、所得保障しかないのではないかと考えている。

移住も大事だが、農林商工全てに対して「跡取り対策」に力を入れてもらいたい。

そして、時間があれば、振興監にも地域に足を運んで意見交換できる場を設けていただけたらありがたいので、よろしく願います。

(浅野地域産業振興監)

後継者問題については、県の農林水商工の分野ごとに、あるいは市町村で、さまざまな対策

を講じているところだが、もっといろいろな対策があるのではというご意見をいただいたと受け止めている。

また、お伺いもするので、地域支援企画員ともどもよろしくお願いします。

2) 関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

(大地委員)

関西との経済交流について、特に林業関係で「強化」「促進」という表現が出てきているが、具体的な木材の販促の関係はどうなっているか、関西圏との経済交流での実績があれば教えていただきたい。

(産業振興推進部 岡田副部長兼関西戦略推進監)

金額の把握はできてないが、三重県を含めた関西への出荷量を目標に設定しており、R3年度の目標 2.5 万 m³に対して、推計値で 2.4 万 m³の実績ということで林業分野も頑張ってくれている。

現在、大阪の太平洋トレードセンターに常駐のコーディネーターを配置し、商談会を実施する動きもスタートしつつある。この連携を深めることで、今まさにいろいろな販路でアタックしていく取り組みも進めているので、目標に向けて一緒にお願いしたい。

3) 連続テレビ小説「らんまん」を生かした博覧会の推進について

意見交換等、特になし。

(以上)